



路政春秋

アメリカ五箇年計畫で 自動車事故減少に努む

アメリカ交通安全會議 (National Safety Council) の發表によると昨年 (一九三五) 中に於て自動車事故による死者は、三六、四〇〇名に達し、前年に比して三〇〇名の増加である。もし死者が自動車の登録數に比例するとすれば、一四〇〇名の増加、又ガソリンの消費量に比例するとすれば一、九〇〇名の増加でなければならぬ。所が同會議の説明によれば、三〇〇名の増加は頂度人口の増加に比例し、死亡率は十萬人につき二八・五名であるとの事である。同會

議ではミルウォーキー市の死亡率が同上につき一一・二名、プロヴィデンス市では僅々七・〇名なることよりして、全國死亡率の低下の可能なるを豫想し、七%減少出來るとすれば二、五五〇名と云ふ莫大な人命救助となるので、遂に交通事故防止五ヶ年計畫 (5-Year Auto-Accident Drive) を發表した。之の計畫にアメリカ各州、各市町村の官憲が賛成し、隣國カナダのコロンビヤ州迄之に参加するに至つた。その防止方法として前記優秀都市の交通整理法を採用し、且簡單なる器械 (Cots) を用ひて効果一〇〇%にする云ふのだが一體どんな器械なんだらうか? (原初五郎)

注意

本欄は讀者諸氏の利用に提供す、治安と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざる限り奇想天外的の寄稿を望む、一文は四百字位にて取捨は編輯子に一任、原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

梅の清節に鑑みよ

遅速はあれと湘南の田舎道を——話にならぬ砂利道——ではあるが春の陽を思ふ儘に受けながら何處ともなく清香の馥郁たるを感じ野趣の津々たるものがある、爆音人を驚かす自動車に遠かつて居るので實に田舎道の詩情豊かなるを覺へざるを得ない、昭和二年の夏春天に遊び友人の購ひ求めたる清代の勳獎樹の詩集の一詠を手記の中から取出して見る、曰く「小船は爪皮の如し坐すべくまた眠るべし。春山林に隨つて行き、澹翠何ぞ聯綿たる。竹外に一鷄唱へ、風氣は大古の前、搖々たり四詩人、添うて

梅花の煙に入る。と漂々として梅の匂が袖に移る爽やかな快なるかな風塵の外

(トウ生)

婦人參政權か參政權

の制限か

四日間を不安裡に過ごして漸く廣田内閣が成立し更始一新の政策をかゝげて躍進日本の大勢に順應せんとする、そこで所得税遺産相續税、資本利子税等の高率累進、小作法、勞働組合法及び養老年金制、母子扶助法、兵士家族扶助金、の制定も速進せらるるのである。が地方制度の根本的改正も必要だろう、急進論者は速かに婦人參政權を確認し議政壇上に婦人の姿を見る時、如何にわが國の政治が明朗となるであろうと論ずる者もある。か客年以來選舉肅正に浮身をやつした後藤前内相、永田現拓相、堀切氏、田澤氏、前田氏などの奮勵努力が斯うしたのにも拘らず選舉の結果はどうである

うか、不正選舉の續發は吾々をして呆然たらしむるのでないか之れ國民一般に政治的教養の缺如せるに職由する、然るに男子よりは一段政治上の智識なき婦人に參政權を與へて理智的合法的に出でず感情に依つて動かさるゝ事の少なくないこととなつたら我邦の政治は何處へ行くか。(伊豆生)

フレ〜潮内相

非常時も非常時、國民をして夢想たもし得なかつた事件の善後措置は勿論あらゆる新時代の政策を遂行しなければならぬ夫れで新内相の手腕に期待する處が少なくない吏道の振起は言ふを待たない、地方自治の刷新、行政區劃の改革、社會政策の樹立、言論の取締、國民思潮の轉換、土木事業の整備等挙げれば數限りもないが昔時野球の勇士として潮内相閣下は大に躍動せられた、國民は奮つてフレ〜と叫ぶを厭はない内相の郷里島根縣美濃郡豊田村長牛尾氏

の譚を耳にしたばかりでも痛快である……潮さんは尋常三年のとき郷里を去られたので幼年時代の逸話といつても少ないが、まあ俄鬼大將といつた腕白者でした、毎年夏になると水泳をしたものですが腕白者の潮さんはそれはそれはいしたもので、今は亡きおとうさんにさん〜叱られたものですよ、一面孝養心が強く、中等學校から大學を卒業するまでは毎年夏は必ず休暇を利用して歸省し両親を慰めたり悦ばしたり孝養の限りをつくしたものです。(赤松子)

官吏道の眞髓か

畏敬せる長老錦東翁が一日會合の席上でオイ編輯子と呼んで示されたのは伊川擊壤集卷三にある宗の司馬溫公の友人邵康節の賀人政政と題する一詩である、詩に曰く、人情大率喜_レ爲_レ官。達士何嘗有_レ所_レ牽。解印本非_レ嫌_レ祿薄。掛冠殊不_レ爲_レ高年。因_レ通物性_レ興_レ衰理。遂悟_レ天心用_レ捨權。宜_レ放_レ襟懷_レ在_レ清景。吾郷况有_レ好林泉。と(洮)